

集落総合対策モデル事業のモデル集落の概要

資料 2

区 分		基幹産業モデル	高齢化モデル	再編統合モデル
市町村名(集落名)		占冠村(占冠・中央・双珠別地区)	幌加内町(母子里地区)	深川市(納内地区)
市町村人口(H25.3.31)		1, 142人(593世帯)	1, 659人(842世帯)	22, 763人(11, 137世帯)
市町村面積		571. 31km ²	767. 03km ²	529. 23km ²
集落人口	現在(3.31)	840人(中央663人、占冠120人、双珠別57人)	36人(昼間人口50~60人)	1, 950人
	最盛期(年)	3,480人(中央1,225人、占冠751人、双珠別1,504人)(S35頃)	618人(S25頃)	5, 315人(S24頃)
集落の高齢者比率		24.0%	55.3%	42.5%
集落の主要産業		商工業、畑作(13戸)	畑作(2戸)	稲作(101戸)
集落概況	位置	中央地区は村の中心部で3地区の中心 占冠地区は中央地区の北部約6km 双珠別地区は中央地区の南東部約6km	町中心部から53km、朱鞠内支所から18km (日本の戦後最低気温記録 -41. 2℃)	市中心部から約7. 5km
	市街地からの交通機関	村営バス5本	路線バス4本	JR9本、路線バス2~3本
	公共施設等	役場、小学校、中学校すべて中央地区	コミセン、大学施設(北大低温科学研究所・森林園ステーション雨竜研究林、名古屋大太陽地球環境研究所母子里観測所)	役場支所、コミュニティセンター、診療所(週3日)、中学校(H26.3閉校)、小学校
	生活関連施設	中央地区に日常生活に必要な施設はほぼ集積	簡易郵便局	コンビニ、薬局、郵便局、信用金庫、スタンド
課 題		<ul style="list-style-type: none"> 一次産業の衰退 雇用の場の減少 豊富な木質バイオマス資源の有効活用 交通弱者への対応 地域コミュニティ機能の低下 	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少と高齢化による地域の担い手不足 買い物(商店の閉鎖)、通院対策 集落内のつながり(交流)の希薄化 就労の場の減少 地域資源(山野、イベント)を活用した交流促進、特産品づくり、産業の創出 	<ul style="list-style-type: none"> 地元製材所の廃業による人口流出に伴う市街地の空き家の増加 農村地域に点在する離農世帯の集住 廃校(H26.3)になる中学校の利用 市街地から離れた農村地域の高齢者の買い物、通院対策
集落の動き		<ul style="list-style-type: none"> 過疎地有償運送、乗り合いタクシー、村内無料巡回バスの運行 熟議(北海学園大学との連携による地域課題解決に向けた住民アンケート、意見交換) 移住施策の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 住民ボランティアによる買い物や通院の支援 委託による児童の通学送迎 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者バス利用料金助成実証事業の実施 民生児童委員や町内会などの連携による安否確認、災害や孤独死などの緊急時連絡体制の構築 地域防災マップの作成
主な活動団体		NPO法人占冠・村づくり観光協会(移住対策)しむかっぶふるさとふつつくふくらむ協議会(地域資源の発見・活用)NPO法人山ほたる(地域カフェの運営)	NPO法人よるべさ(相談・講座・研修等の福祉事業、生活支援事業)	納内地域づくり推進協議会(緊急連絡体制づくり、防災マップ作成)納内生き生きまちづくり委員会(活性化に向けた住民と行政の意見交換の実施)
今後の取組の方向性		木質バイオマスなどの地域資源を活用した産業の振興による雇用の創出、地域カフェを活用した地域コミュニティの活性化 等	5~10年後を見据えた集落の将来像の検討、日常の交通手段や地域の担い手の確保、住民同士の絆の強化 等	散在型の集落内の将来に向けた再編・集住化の検討、点在する空き家の実態把握と利活用方法の検討 等